

ガネフォ60周年のお祝い

ガネフォ本部役員

山田 脩

(慶応義塾大学出身)

昭和39年(1964年)10月に、第18回東京オリンピックを控えた前年の昭和38年11月に、インドネシア・スカルノ大統領、カンボジア・シハヌーク殿下、中国の毛沢東が中心になって、IOCに対抗して共産国および中南米、アフリカ、中小の国々を中心に世界の51カ国と2700人の選手が参加した「新興国スポーツ大会」(「GANEF0」・「ガネフォ」と言う)が開催されました。

「ガネフォ」に参加すると、翌年の東京オリンピックに参加できないと言う規定がありました。そのような中、親日家のスカルノ大統領が、日本に参加してもらいたいと言う要請がありました。

歴史的な関係によると日本はインドネシアがオランダから独立する為に、第2次世界大戦に敗北をきした日本軍がインドネシアに残り、バックアップした事が有名であります。

インドネシアの老人たちは、日本の軍歌「海ゆかば」を歌ったと聞いています。

そういう中で立ち上がったのが、世界平和及び日本の為に、玄洋社大アジア主義の頭山満氏の孫である「頭山立國氏」であります。

26歳の若さでガネフォ選手団の団長、個人的な関係もあったと思いますが、大会へ参加するには大変な経費が掛かるし、国からの支援も出ない事で大変苦勞が多かったと思います。

一番苦勞したのは、経費面と選手集めでした。当時はこの2つに大変苦勞しましたが、何とか参加できる形が整いました。私も、人集め等に苦勞をしましたが、何とか参加する選手を集めることが出来ました。選手の皆様も苦勞が多かったと思いますが、当時の情勢を考えると世界平和に対する一助になったと思います。

今年、「ガネフォ60周年」を迎え、感無量であります。

私は、今、体調を崩し施設で生活しております。介護をする人の中にインドネシアの若い人が多く居ますが、その頃の状況について知っている人は、殆ど居ません。ガネフォとか、独立戦争の時の歴史については、語り継ぐ責任があると思います。

70周年に向けてスタートするに当たり、村上順三氏のご苦勞に感謝すると共に、参加した皆様の健康をご祈念申し上げたく思います。

これをもって、ガネフォ60周年に寄せた記念の言葉とさせていただきます。



頭山団長の右が私